

平成 23 年 3 月 16 日

東北地方太平洋沖地震の協会対応について

～会員の皆さまへ～

特例社団法人 日本精神科看護技術協会

災 害 対 策 本 部

3 月 11 日に発生した今回の災害は、強い余震とおよび想像をはるかに超えた津波が起っており、原子力発電所の二次災害の発生やライフラインの遮断を広範囲に起こしています。また、首都圏を含め被災地周辺でも、ガソリン不足や食糧不足が起こり、計画停電の影響から公共交通手段の乱れも続いております。

被災地の状況が報道されることに接して、居ても立っても居られない気持ちをかきたてられます。今回のご報告では、現時点での協会の活動をお伝えし、皆さまのご心配に少しでもお応えし、被災されている会員の皆さまやその地域への支援を実現したいと思っております。

支援には時期があり、より力を集約した形で行うことが、被災地の混乱を防ぐことにもなりますので、会員の皆さまにあっては、協会から発信される情報をもとに行動を起こしていただけると幸いです。協会では関係団体との協力も含め、活動して参ります。

次に現在の協会活動と今後の活動予定についてご説明いたします。

1、 これまでの協会活動と情報収集

東北6県の支部事務局および支部役員と連絡は昨日ですべて取ることができました。東北6県は今年度会員施設が174施設あります。そのうち約30施設が太平洋沿岸にあり、津波の影響を受けやすいところにあります。詳しくは別紙の会員施設分布図をご覧ください。

また、支部役員や被災地の理事、事務職員から情報を集約し、他団体が発信している情報も併せて整理し、状況把握を行っております。またその集約した情報や災害時に必要なマニュアル等のデータを上記情報提供者へ配信しております。

また、他団体との連携のタイミングを図るための情報収集や関係官庁との支援の申し出について協議も行いました。

2、 直接的な支援（現地への物資搬入など）

こちらは時期を見計らい、会員施設から物資を提供していただき、関係団体と協力してお届けできるよう調整中です。物資調達の段階になりましたら、ご連絡差し上げますので、しばらくお待ちください。日頃からご支援をいただいている企業とのタイアップなどを現在、検討しております。

3、 義捐金について

間もなく、支部事務局を通じ協会から正式な募集をお知らせします。それまでの間は各施設、各支部で取りまとめしていただけたらと思います。口座や寄付先を明示してご連絡をいたします。4月号ナーシングスターと一緒に文書をお届けします。

4、 その後の活動

今回の災害は長期的な対応も必要です。今後、メンタルヘルスの問題もクローズアップされると思います。協会の専門領域の活動はこちらも重視したいと考えておりますので、既存の仕組みで支援するか、被災地のメンタルヘルス支援の仕組みを構築し、支援に臨むか、検討をすすめて参ります。独自で行うか、関係団体と連携して行うかの調整も今後の課題となります。

終わりに

協会の会員は全国に4万人以上おります。その皆さんの力を合わせて、被災された会員の皆さん、ご家族、そしてその地域の精神障がい者の方々、一般市民のみなさんへ、私たちの支援を届けていきたいと思ひます。

協会では災害対策本部を立ち上げ、以下の4点を行うことが当面の課題と考えております。

- 1) 会員の皆さんの力を合わせて行動すること
- 2) 被災地からの状況についてネットワークを活用し集約すること
- 3) 具体的な支援方法を段階的に確立すること
- 4) 支援にあたっての関係団体等の調整を行うこと

現在、皆さんにお願いしたいことは2点です。

- 1、 一昨日支部事務局にお届けしたFAXニュースは支部事務局から会員施設へ届いていると思ひます。その文書に災害対策本部へのFAX返信用紙があります。こちらへ被災地に向けたお見舞いと応援メッセージをご記入の上、ファックス願ひます。協会HPでも掲示板で同様の書き込みが可能です。ご利用ください。このメッセージを被災地の会員の皆さまへお届けします。

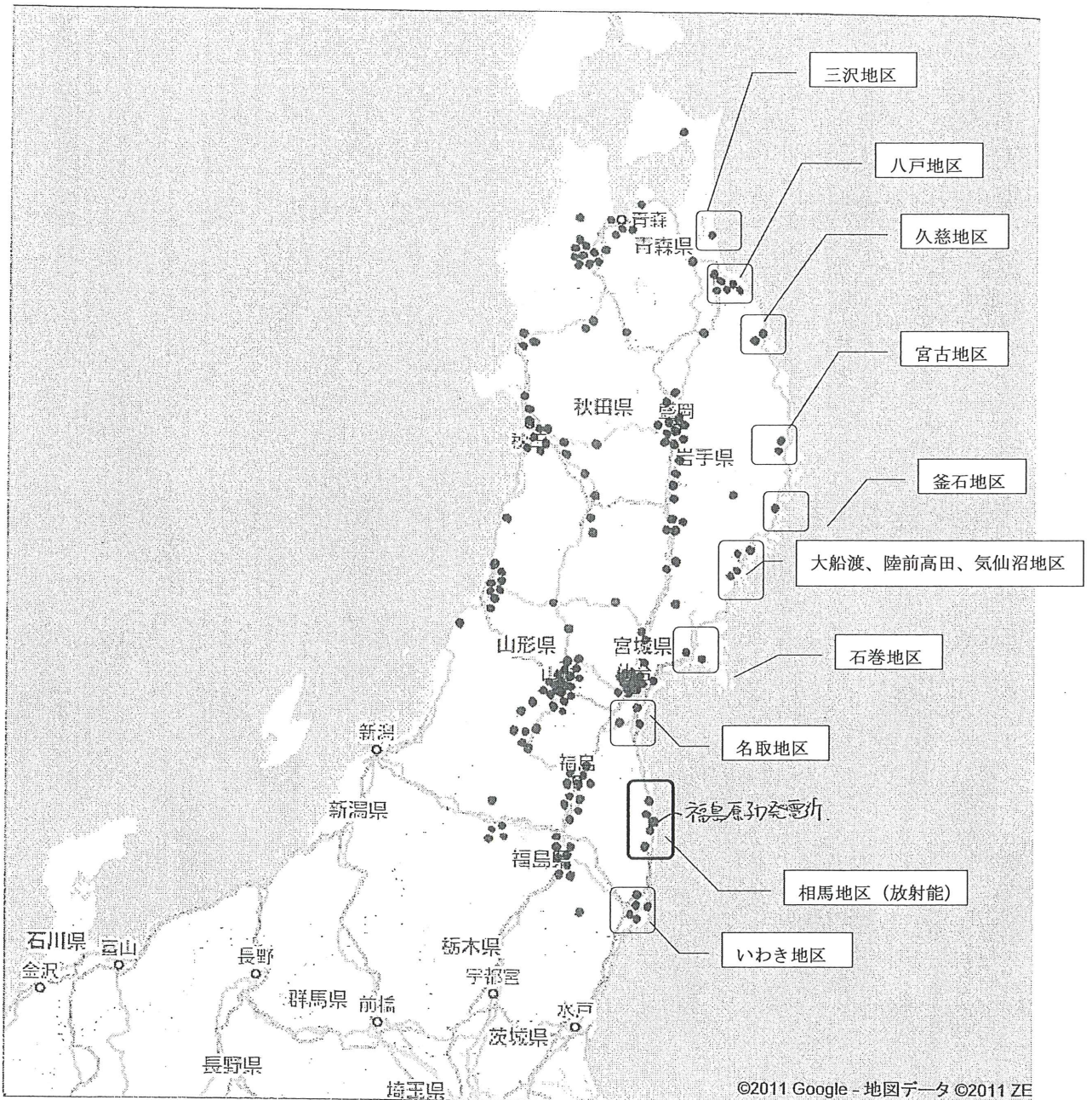
- 2、 義捐金の準備を願ひします。

今後とも、協会では災害対策本部を中心に、活動を続けて参ります。活動の報告やご協力をお願いいたしますので、よろしく願ひします。

災害対策本部 本部長 末安民生
総務委員長 渡辺勝次
担当常務 龍野浩寿

平成 22 年 3 月 15 日現在
東北 6 県会員施設
174 施設の分布図

Google マップ



●・・・会員施設

日精看総務委員会作成

太平洋沿岸部の会員施設は 30 施設。この施設では津波被災と放射能の問題が生じる可能性高い